



つながり

実りの秋 研修の秋 ～研修会報告～

10月を境に、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、延期されていた研修会、実施予定であった社会教育関係の研修会が、少しずつ開催されるようになりました。

10/2 南予管内社会教育行政担当者研修会

南予管内市町等教育委員会連合会と南予教育事務所が共催で、「南予管内社会教育行政担当者研修会」を開催しました。「タイムラインを活用して～コロナ禍における防災～」をテーマに、愛媛大学防災情報研究センター長の森脇亮先生を講師に迎え、講演と演習（タイムライン作成）の研修を行いました。



タイムラインとは、「台風などの災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画」のことです。

マイタイムライン作成の演習では、松山市総合政策部防災・危機管理課の「まつやま マイ・タイムラインのつくり方」を参考に、参加者が地元のハザードマップを持ち寄って、地域にはどのような災害の危険性があるか、いつ、どのような避難行動をとるべきかを考えながらタイムラインを作成しました。

防災教育は社会教育の大きな柱の一つとなっています。命を守ることに直結する行動をどう地域に広げていくか、それぞれの地域の課題として考える必要があると思います。

10/20 南予地区人権・同和教育研究協議会

今年度の南予地区人権・同和教育研究協議会は西予市野村・城川地域の6会場で行われました。



感染症対策のため、学校教育部会では例年の授業公開を取りやめ、授業の様子を前もって撮影し短くまとめたものを視聴する代替措置を取りました。

社会教育部会でも参加人数も制限をしておのの実施となりました。地域の各団体と連携し隣保館が要となって新しいつながりを作る取組や、子ども会が自分たちの実践を地域に広げ大人の活動にも力を与える取組などの実践報告がありました。子どもたちの活動に負けず、大人が同和問題解決に取り組む姿を見せなければならないという意見が出されていました。

様々な制約のあるなかでも、実践を持ち寄って学び合う、人権・同和教育の歩みを止めないという思いを強く感じた研修会でした。

(文責：森竹)